

『私たちは常に住民に寄り添う「良き隣人」』を掲げて

中津川市民生委員児童委員協議会連合会

中津川市の概要

現在の中津川市は、平成17年、島崎藤村生誕の地、長野県山口村馬籠を含む越県の8市町村の大合併でした。人口86,364人、世帯数27,928世帯、高齢化率24.5%でしたが、令和2年4月1日現在は人口77,865人、世帯数31,165世帯、高齢化率32.5%と、人口減少、高齢化率が上昇し、私たち民生委員児童委員の活動に期待感が高まっております。

中津川市民生委員児童委員協議会連合会は、15地区、委員数225名(主任児童委員30名)で構成され、毎月連合会役員会を開催して単位民児協の活動を支援しています。

単位民児協の運営を支援する連合会活動の取り組み

単位民児協の支援を目的に、平成28年の前回改選以降、活動支援と各地区共通化事業を目指して現状を分析、把握をすると、問題点と課題が見えてきました。

前回3年間は10項目について検討と課題解決を行い、今年度も引き続き取り組んでいます。その一

例として「命のバトン」について紹介します。



▲役員を対象に研修会を開催
講師は連合会長が務めました

社会福祉協議会と民生委員児童委員協議会が連携した「命のバトン」の取り組み

◇ねらい

「命のバトン」は、一人暮らし高齢者等を対象に、持病やかかりつけの病院、服薬、緊急時の連絡先などの「救急情報」を入れたケースを冷蔵庫に保管し、急病などの緊急時に、消防署の救急隊員がその情報を確認することで、いち早く適切な救急活動につなげるためのものです。

独居高齢者等の緊急時支援策として、中津川市では平成21年から平成24年にかけて取り組みを始めました。信頼度の向上、継続性、市

内統一を目指して、今年度は試行期間、来年度から本格運用を始めていきます。

◇関係組織の役割分担の明確化
・社会福祉協議会と民生委員・児童委員協議会が連携した共同事業として取り組む。

・社会福祉協議会は基本事業として、各地区へ予算配分、事務局支援(資機材調達・名簿作成・消防署提出)を行う。

・民生委員・児童委員協議会は、毎年度の更新及び追加実務作業を実施する。

◇設置対象者

- ・65歳以上の独居高齢者
- ・寝たきりの者
- ・認知症高齢者
- ・75歳以上の高齢者のみの世帯で必要な者
- ・障がいのある者で必要な者

◇配布する資機材

- ・ボトル：冷蔵庫内の扉へ保管
- ・マグネットシール：冷蔵庫の扉等見える位置へ貼る
- ・情報用紙：ボトル内へ保管⇕救急隊ニーズ内容
- ・服用のお薬情報：情報用紙と一緒に保管



▲「命のバトン」資機材一式

◇情報用紙の更新

- ・情報用紙は年度ごとに色を変えて毎年9月に更新する。
- ・年度途中で対象者が発生した場合は随時追加する。

◇その他整備した書類

- ・実施要領の作成(関係者用)
- ・事業説明書の作成(設置対象者説明用)

新たに活動スローガンを策定

今年度から連合会の活動スローガン『私たちは常に寄り添う「良き隣人」』を掲げて活動しています。人間関係が希薄になった今、地域で困っている人たちと同じ目線で支援活動に取り組んでまいります。



▲活動強化週間に市内一斉にのぼり旗を掲げて街頭活動をします